消防防災ア・ラ・カルト 2

救 急 出 場 件 数

財団法人 消防科学総合センター 研究員 徳 永 英 夫

当「消防防災ア・ラ・カルト」では主に自 治省消防庁で収集している消防統計データを 用いて、毎回テーマをかえながらさまざまな 角度から各種消防統計データを眺めている が、第2回目の今回は「救急出場件数」と題 して、消防本部における救急出場件数、救急 告示医療機関数、現場到着所要時間、収容所 要時間等のデータをとりあげてみることにす る。

今回のデータは全て自治省消防庁による昭和62年度救急業務実施状況調からのものである。

集計に当たっては消防本部をその管轄地域 (受託地域を含む)の人口等により4グループに分けた。表1にそれぞれのグループについての本部数、救急出場件数及び事故種別構成比を,表2に人口1万人当たりの救急隊数、 人口1万人当たりの救急出場件数,救急隊1 隊当たりの救急出場件数,面積100k㎡当たり の救急隊数,面積100k㎡当たりの救急告示医 療機関数,現場到着所要時間,収容所要時間 の平均を示す。

ただし、これら平均値の算出にあたっては、始めに各消防本部における集計計算を行い、その計算結果を用いて各グループの平均及び全国平均を求めたものである。一部のデータで、昭和62年版「救急・救助の現況」にある値と僅かに異なるのはこのためである。

また、各グループの本部数が前号に記載した値と若干異なっているのは、今回集計に用いた昭和62年度救急業務実施状況調の人口データが昭和60年度の国勢調査によるためである。

表1のように、各グループともその救急出

区	分	本部数	緊急出場件数	(交通事故)	構成比 (急病)	(%) (一般負傷)	(その他)
人口 5 7	万人未満	361	211, 319	22	47	13	18
人口 5 7	万人以上 万人未満	286	351, 403	25	46	12	17
人口107	万人以上	273	1, 063, 917	25	46	11	17
政令指	定都市	11	719, 268	21	52	13	15
全	E	931	2, 345, 907	23	48	12	16

表 1 人口区分別救急出場件数及び事故種別構成比

表 2 人口区分別対人口救急出場件数等(1本部当たりの平均値)

区	分	人口1万人当たりの 牧急隊数	人口1万人当たりの 救急出場件数	1 救急隊当たりの 救急出場件数	面積100届当たりの 救急隊数	面積100回当たりの 救急告示医療機関数	現場到着 所要時間	収容所要時間
人口5万	7人未満	0,78	190	299	2. 5	1.7	6分55秒	26分41秒
人口5万	7人以上 7人未濟	0.49	174	429	3.4	4.2	6分19秒	23分17秒
人口107	了人以上	0, 31	174	712	3.7	6.8	6分14秒	21分16秒
政令指	定都市	0.16	232	1,548	7.4	21.0	4分42秒	18分30秒
企	[5]	0,55	181	475	3.2	4.2	6分31秒	23分56秒

表3 人口5万人未満の対人口救急出場件数上位5本部

消防本部名	而松 (km²)	人口	人口1万人当たり の救急出場件数	(交通引散)	構成比 (急病)	(%) (一般負傷)	(その他)
箱根町消防本部 (神奈川県)	94.03	19, 792	701	26	48	17	9
宮島町消防本部 (広島県)	30. 23	3, 188	530	2	53	32	13
藤原町消防本部 (栃木県)	698.89	16, 260	456	16	51	13	19
湯河原町消防本部 (神奈川県)	47.68	35, 861	408	25	· 44	15	16
城崎町消防本部 (兵庫県)	134. 77	11, 264	392	14	51	25	10

表 4 人口 5 万人以上10万人未満の対人口救急出場件数上位 5 本部

消防本部名	而载 (km²)	人口	人口1万人当たり の救急出場件数	(交通事故)	構成比 (急病)	(%) (一般負傷)	(その他)
伊東市消防本部 (静岡県)	124. 24	70, 195	357	17	51	15	18
津久井郡消防組合 (神奈川県)	237.73	63, 739	295	41	35	11	13
戸田市消防本部 (埼玉県)	18.01	76, 960	295	34	40	9	17
下田地区消防組合 (静岡県)	316. 26	51,089	289	19	46	18	17
富士五湖消防組合 (山梨県)	484.49	93, 724	278	26	42	13	20

表5 人口10万人以上(政令指定都市を除く)の対人口救急出場件数上位5本部

消防本部名	面積(km)	人口	人口1万人当たり の救急出場件数	(交通事故)	構成比 (急病)	(%) (一般負傷)	(その他)
藤沢市消防本部 (神奈川県)	69.63	328, 387	276	27	43	13	17
田川地区消防組合 (福岡県)	363. 32	163, 143	263	18	48	8	26
鎌倉市消防本部 (神奈川県)	39.53	175, 495	256	23	48	15	14
八尾市消防本部 (大阪府)	41.25	276, 397	251	20	54	11	16
厚木市消防本部 (神奈川県)	164.81	178, 492	247	33	42	10	15

表 6 政令指定都市の対人口救急出場件数上位 3 本部

消防本部名	面積(km²)	人口	人口 1 万人当たり の救急出場件数	(交通事故)	構成比 (急病)	(%) (一般負傷)	(その他)
大阪市消防局	213.08	2, 636, 249	353	14	58	12	16
東京消防庁	1, 730. 44	11, 634, 931	280	21	52	14	12
横浜市消防局	430.80	2, 992, 926	241	20	53	13	14

場件数の事故種別構成比は、ほぼ全国平均並みであるが、政令指定都市に関しては急病の割合が全国平均に比べ若干高く、52%(全国平均は48%)となっている。また逆に交通事故の割合が全国平均に比べ低く、21%(全国平均は23%)となっている。

また、人口1万人当たりの救急出場件数を 見ると政令指定都市以外のグループに関して はほぼ全国平均並みであるのに対し政令指定 都市では232件(全国平均181件)とかなり高 くなっている。この原因としては、交通事故 等の大都市特有の生活環境に起因する事故の 多いことが考えられるが、実際には前述のよ うに交通事故による出場件数の占める割合 は、他の消防本部に比べ政令指定都市の方が かえって低い。それでは何故、政令指定都市 において人口に対する救急出場件数が高いの か、その理由の一つとして考えられるのは、 人口の捉え方である。大都市においては数字に現れている人口以外に昼間人口といったものが考えられる。すなわち,近隣の市町村に住んでいて通勤,通学のために都市に来ているといった人も含めた人口である。昭和60年国勢調査によると政令指定都市全体でこの昼間人口は常住人口の約14%増しになる。仮に,この14%増しの人口で計算すると,政令指定都市における人口1万人当たりの救急出場件数は約202件となり,かなり低くなる。また,買い物,あるいは遊び等で都市に来ているような人も含めれば,さらに全国平均に近づくと思われる。

次に、人口1万人当たりの救急隊数を見る と人口規模の大きいグループになるほど少な くなっている。従って、1救急隊当たりの出 場件数は人口規模の大きいグループになるほ ど多くなり、因みに1日、救急隊1隊当たり の平均出場研数を求めると全国平均で1.3件, 政令指定都市では4.2件である。

現場到着所要時間及び収容所要時間に関しては全国平均で6分31秒及び、23分56秒で、人口規模の大きいグループになるほど短縮されており、それぞれ面積100km3当たりの救急隊数及び医療機関数が多くなるほど所要時間が短縮されている。

表3~表6に人口1万人当たりの救急出場 件数の多い消防本部を示す。

人口5万人未満及び人口5万人以上10万人 未満のグループにおいては、温泉等の観光地 が多くみられ、前述の政令指定都市における 昼間人口同様、管外からの流入人口が大きい ことが要因の一つであると思われる。

また、事故種別構成比については、どのグループにおいても消防本部により様々であり、それぞれの地域特性が反映されていることがうかがえる。

政令指定都市における人口1万人当たりの 救急出場件数では、大阪市消防局が353件と 最も多いが、大阪市における前述の昼間人口 を用いて計算すると、251件である。同様に 東京消防庁では、229件となる。 紙面の都合上,詳細なデータは省くが,面積100km当たりの救急隊数と現場到着所要時間との関係,及び面積100km当たりの救急告示医療機関数と収容所要時間との関係についての集計結果を紹介する。

人口5万人未満のグループでは,面積100k㎡ 当たりの救急隊数の上位20本部における現場 到着所要時間の平均が4分22秒,下位20本部 では8分52秒,面積100k㎡当たりの救急告示 医療機関数の上位20本部における収容所要時間の平均が18分30秒,下位20本部では33分5 秒となっている。同様に,人口5万人以上10 万人未満のグループでは,現場到着所要時間が4分41秒と7分56秒,収容所要時間が17分13秒と26分5秒,人口10万人以上のグループでは,現場到着所要時間が4分44秒と8分30秒,収容所要時間が17分41秒と26分34秒となっている。

いずれのグループにおいても,面積当たりの救急隊数及び医療機関数が現場到着時間や 収容時間に大きく影響している。また,政令 指定都市においては特にこのような相関関係 は認められず,各都市それぞれの交通事情等 の様々な要因があると思われる。